

文脈を重視した古典文法指導の工夫

～類推力を養成するワークシートの活用～

高校国語班

菅原佳津紀（高等学校教諭）

1 自己課題設定理由

◎「従来の古文授業」→ 解釈のための古典文法学習（用言・助動詞の活用…）

文法は必要不可欠な学習事項ではあるが…

文法学習に偏りすぎ…

そこで…

- ◆未習事項や文法の例外に対応する読解力がつかない…。
- ◆文章を一つの作品として鑑賞する態度を育成できない…。
- ◆文法に対して苦手意識を抱かせてしまう…。

◎「普段の我々のコミュニケーション」

↓ 文法など意識せず話の流れ・相手の表情・場の雰囲気などを

類推して、会話を成り立たせている。

同じように…

◎「古文の読解」

↓ 前後の文脈・テーマ・文章の形式や構造を

考えながら、内容を

類推することが、読解力養成に役立つのではないか。



2 自己課題解決策

■類推力養成のためのワークシート

<p>① 花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものかは。雨に向かひて月を恋ひ、垂れこめて春の行方知らぬも、なほあはれに情け深し。</p> <p>② 咲きぬべきほどの梢、散りしをれたる庭などこそ見どころ多けれ。歌の詞書にも、「花見にまかれりけるに、早く散り過ぎにければ」とも、「③ 障ることありてまからで」なども書けるは、「花を見て」と言へるに④ 劣れることかは。</p>	<p>① 雨に向かつて月を恋い、すだれを垂れて（家の中に）引きこもって春が暮れてゆくのも知らないでいるのも、やはりしみじみとして趣が深いのである。</p> <p>② 花が散って、しおれた花びらが点々とある庭などにこそ見る価値が多いのである。歌の詞書にも、「花見に参りましたところ、もうすでに散り終わってしまったので」とか、「③ 」。なども書いてあるのは、「花を見て」と言っているのに④ 。</p>
--	--

▽傍線部の口語訳を下の空欄に記入する。
 ▽傍線部以外の口語訳は下段に示しておき、
 原文で理解できないときは口語訳からも類推できるようにしておく。

3 研修の成果と課題

●成果●

① 弱点・つまずきの発見

生徒一人一人のワークシートを確認することにより、生徒の読解力・表現力・古文常識・知識など弱点やつまづきがより明確になり、重点的な指導ができた。

② 能動的・積極的な授業参加

ワークシートに取り組むことで、指示待ちの姿勢が解消されるとともに、授業中の活発な発言など、能動的・積極的な授業参加が見られた。

③ 文脈把握による作品鑑賞

文脈を追うことで、主題を読み取るだけでなく、作品独特の内容や文体・雰囲気まで感じることができ、解釈を進めながらの作品鑑賞に結びついた。

▼課題▲

① ワークシートづくりの工夫

文脈を類推せず、安易に記入してしまうことのないように、類推の根拠まで明示させるようなワークシートづくりが求められる。また、どこを解釈させるかについても年間を見通した計画を作成する必要がある。

② 文法事項の軽視

文脈を重視しすぎるあまり、文法を軽視するおそれがあるので、文法や句法が有効な手段であることの再確認を促したい。

担当指導主事

高校教育研究係

上原 清司